



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

VOD-02「根拠に基づくヘルスマンテナンス ～患者さんや一般市民の健康を守るために～」

【講師】

宮田 潤（大阪大学大学院 医学系研究科社会医学講座 公衆衛生学）

宇戸谷翔太（福井大学医学部附属病院総合診療部）

達川 知美（石川勤労者医療協会城北病院内科）

清水 海斗（永平寺町立在宅訪問診療所）

新野 保路（南越前町国民健康保険今庄診療所）

我が国の健康づくり運動の方向性を示した健康日本 21 では、「一次予防の重視」が謳われています。一方で、40～69歳の住民の大腸がん検診受診率は約4割、65歳以上の住民の肺炎球菌ワクチン接種率も約4割と少ないことが問題視されています。さらに我が国では、医師が予防医療について体系的に学ぶ機会は少なく、また眼前の問題に追われ見落とされがちなのが現状といえます。

このセッションでは、「ヘルスマンテナンス」の4項目である「スクリーニング」、「カウンセリング」、「予防接種」、「予防的内服」について、明日からの臨床に役立つようエッセンスを凝縮して提供します。なお、既に「USPSTF」や「ACIP」などの情報に則って診療を行っている方々には、少々簡単すぎる内容かも知れません。

このセッションの目標は、予防医療として何をどんな人に提供すべきか、参加者が理解し、提供の機会を逸しないようにすることです。さらに、どのようにエビデンスを確認するか、またエビデンスがない場合にどう対応するかについても扱っています。この機会にぜひ、ヘルスマンテナンスについて学んでみてはいかがでしょうか。